

Citation: Sandercock PAG, Counsell C, Tseng MC. Low-molecular-weight heparins or heparinoids versus standard unfractionated heparin for acute ischaemic stroke. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2008, Issue 3. Art. No.: CD000119. DOI: 10.1002/14651858.CD000119.pub3.

CRG名: Stroke

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 14 September 2007

Clib issue No.; N/U: 2008 issue 3; Update

背景: 低分子量ヘパリンとヘパリノイドは、標準的な未分画ヘパリンよりも出血リスクが低く、抗血栓作用が強力な抗凝固薬である。このレビューは、1995年第1号で最初に発表され、2005年第2号で改訂されたコクラン・レビューの改訂版である。

目的: 確定または推定された急性虚血性脳卒中の患者を対象とした低分子量ヘパリンまたはヘパリノイドの効果と未分画ヘパリンの効果を比較する。

検索戦略: Cochrane Stroke Group Trials Register(最終検索2007年6月)を検索した。これに加えて、Cochrane Central Register of Controlled Trials(コクラン・ライブラリ2007年第2号)、MEDLINE(1966年~2007年6月)およびEMBASE(1980年~2007年6月)を検索した。本レビュー以前の版に対しては、MedStrategy(1995年)を検索し、製薬企業に問い合わせた。

選択基準: 急性虚血性脳卒中の患者を対象としたヘパリノイドまたは低分子量ヘパリンと標準的な未分画ヘパリンを比較したランダム化試験。脳卒中の発症から14日以内に治療が開始された試験のみを含めた。

データ収集と分析: 2名のレビューアが独自に採決する研究を選択し、試験の質を評価し、データを抽出した。

主な結果: 3137例を対象とした9件の試験を含めた。4件の試験はヘパリノイド(ダナパロイド)、4件の試験は低分子量ヘパリン(エノキサパリンまたはセルトパリン)、1件の試験は明記されていない低分子量ヘパリンと、標準的な未分画ヘパリンを比較していた。低分子量ヘパリンまたはヘパリノイドへの割付けは、標準的な未分画ヘパリンと比較して、深部静脈血栓のオッズが有意に減少した(オッズ比(OR)0.55、95%信頼区間(CI)0.44~0.70)。しかし、より重要なイベント(肺塞栓症、死亡、頭蓋内出血、頭蓋外出血)の発現数が非常に少ないため、これらの重要なアウトカムについて、標準的な未分画ヘパリンと比較した低分子量ヘパリンまたはヘパリノイドの利益とリスクに関する信頼性の高い推定値は提供できなかった。再発性脳卒中や機能上のアウトカムに対する効果を評価するには不十分な情報しか入手できなかった。

レビューアの結論: 本レビュー以前の版以降、2397例の参加者を対象とした関連性のある3件の新規の研究はいずれも、結論を変更するような追加的情報を提供していなかった。急性虚血性脳卒中後の低分子量ヘパリンまたはヘパリノイドによる治療は、標準的な未分画ヘパリンと比較して深部静脈血栓の発現を減少させるようであるが、死亡および頭蓋内出血を含むその他の重要なアウトカムへの効果に関しては、信頼性の高い情報を提供するにはデータが少なすぎる。

(監訳 江川賢一)

翻訳公開日: 08年11月18日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がありましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年4回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。

